

新風を福岡からお届けします！！

新たなる風が吹くことを感じた。それは確実に目の前で起こった出来事である。福岡県博多区、第 25 回福岡県臨床工学会特別講演の演壇には、真っ白いジャケットを羽織った参議院議員「自見はなこ」先生のお姿があった。

一般社団法人福岡県臨床工学技士会では政治活動の重要性を痛感し、日本臨床工学技士連盟設立より同調してきた経緯がある。学会長の熱望により、福岡県下事業では初の現職国会議員による講演となったのである。学会参加者は472名、うち127名が臨床工学技士養成校の学生であった。特別講演中は他会場での演題はなく、そのほとんどが本会場にて拝聴したことになる。



会場内には目新しいスーツ姿で学会に参加した学生、各医療施設で職務に就く臨床工学技士、協賛にて訪れた医療機器関連企業、今からどんな話になるのか、そもそも政治家がどのような話をするのか興味がある顔の者も、つまらなさそうにスマートフォンをいじる者も様々であった。



第一声は穏やかに始まった。自身の生い立ちから話が始まり、医師となり臨床工学技士と共に患者様をお助けする仕事に従事してきたこと。通常、政治家の講演会では壇上の真ん中におかれた演台より、第一声から熱の籠った演説だと思っていた。しかし自見先生の言葉には優しさと、寄り添うような物腰が印象的であった。会場内の雰囲気は少しずつ変わり始めた。我々、臨床工学技士の存在と仕事内容を、さらにはその重要性をも語ってくださる自見先生を聴衆は自然な成り行きで受容したのである。

我々の社会的な意義を前段で述べたにもかかわらず、なぜ認知度が向上せず厚遇を受けないのか。それは政治に対する認識が低いからだと言えよう。ここでも自見先生は優しく語りかけるのである。日本国民としての権利、立法府としての役割、部会から委員会、各種陳情など政治に無関心である者には初めて聞く話ばかりであろう。しかし「私の一日」として政治活動の話が進むと、すでに受容した聴衆はそ

のままその役割と重要性を認識し、以前は医療従事者であった自見先生に感銘を受けるのである。



そして最後に語られた言葉はこれまでにないほど熱く、聴衆には深く響いたに違いない。「皆様方にとって最も必要なことは団結することです。透析業務をされている方や人工呼吸器に携わる方も、手術で人工心肺を操作する方でも同じ臨床工学技士じゃないですか。(一部抜粋)」

この言葉を我々は真摯に受け入れなくてはならない。なぜなら、専門性が多岐に渡るが故に業務間での協同性や協調性に欠けるのではないだろうか。「技士会に入るメリットって何ですか?」「連盟に入ると何が良いのですか?」よく聞く問いかけである。自己の利得をつい口にしてしまう昨今、医療を守るため政治家へと転身された方の演説である。その必要性を説く講演に舟を漕ぐ者はおらず、膝に手を置き前のめりの学生、目を固く閉じ唇を真一文字に腕を組み何度もうなづく者、必死に何かを記すべくメモを取る者と様々であるが、冒頭の雰囲気からは一変していた。会場から「今すぐにでも我々が出来ることは何でしょうか?」との問いかけに自見先生は政治に参加すること、選挙権を行使することを述べられた。

私は講演後に数名の若手技士や学生と談話する時間があつた。彼らは次の選挙では投票行動をとると言っていた。今日、会場に来ていない友人に政治の必要性を教えたいと言った。もっともっと我らの事を理解する政治家が誕生してほしいと言った者もいた。

その時、風は吹いたのだ。

政治の事を知らなかったのは彼らが悪いわけではない。学校で習わなかっただけでもない。自分らの生活に政治が関わっていることを教えられなかったのだろう。その実感がなかっただけであろう。



これからも、明日の医療を支える臨床工学技士は日本臨床工学技士連盟とともに団結すべきではないだろうか。福岡から更なる風を多くの者に感じてほしく筆を執った。

(一般社団法人福岡県臨床工学技士会 会長 小島英樹)